

答辞

一面の銀世界を成していた雪もすっかり解け、日々温かくなる日差しに春の訪れを感じる季節となりました。この良き日に、私たち卒業生のために、厳粛に卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。先ほどは校長先生をはじめ、ご来賓の皆様、在校生の皆様から励ましのお言葉をいただきましたことに、卒業生一同を代表し、厚く御礼申し上げます。

これから始まる新しい生活に期待と不安で胸をいっぱいにしていた一年生から時間は流れるように過ぎ去り、気が付けば今日の卒業の日を迎えています。思い返せば三年間様々な出来事がありました。数え切れ

ないほど多くの考査や模試を受け、点数が
上がって喜んだり、点数が思うように伸び
ず、思い悩んだりもしました。三年生になっ
てからは、判定や偏差値を今まで以上に気
にするようになり、現実味を帯びてきた大
学受験へのプレッシャーに押しつぶされそ
うになりながらも勉強に励みました。放課
後になると学校中にあふれていた部活動の
熱気。時には仲間と協力したり、切磋琢磨し
たりしながら、そして時には真剣に己を見
つめ直し、それぞれの目標に向かって努力
を重ねました。学校祭をはじめとする学校
行事では、非日常に胸を躍らせながら、一人
一人が目を輝かせていました。そして、毎日
の何気ない日常がありました。授業中は真
剣にノートをとっている人もいれば、睡魔

と全力で戦っている人もいた。休み時間になると教室中が賑やかになった。移動教室では、授業開始のチャイムに焦り、慌てて廊下を走った。体育の後の教室では、制汗剤の匂いが教室に充満し、次の授業の先生が眉をひそめた。そんな当たり前の日常が案外一番の思い出かもしれない。多感な時期にあり、勉強のことはもちろん、人間関係のこと、学校生活のことなど悩み事も多くありました。今思うと全て成長の礎であったと感じます。

さて、私事ではありますが、私は中高六年間をこの高志の学び舎で過ごしました。中学校時は高志中学校一期生としての誇りと自覚を持ちながら、後輩たちへの確かな足跡を築いてこれたと思います。そして高校

生になってからは、新しい仲間とともに完全な併設型中高一貫校としてのスタートラインに立ちました。変化の多かったこの学年で無事に高校三年間を過ごすことができたのは、決して自分一人の力だけではないはずです。優しくも厳しく指導してくださった先生方。進路について真剣に話しているときも、くだらない話で笑っているときも、いつでも私たちに寄り添ってくださったことは、私たちの心の支えでした。先生方と出会えたことは一生の財産です。本当にありがとうございました。そしてなにより、私が高校三年間の毎日を笑って過ごすことができたのは友人たちのおかげです。他愛もない話で笑いあったこと、大会に向けて必死に練習したこと、学校祭で一致団結し

たこと、夜遅くまで勉強したこと、どれもかけがえのない思い出です。私は友人と過ごす時間が好きでした。そんな友人たちと出会えることができ、幸せです。本当にありがとうございます。みんなのこれからの活躍を心から祈っています。そして、家族へ。いつも側で支えてくれてありがとう。時には迷惑をかけることもあったけど、いつでも私の味方でした。これからも見守っていてください。

私たちは高志高校生として三年間過ごしてきました。そんな中で私は、同級生にもかわらず、内進生、高入生と呼び分けられて互いになかなか打ち解けることができないうことにもどかしさを感じていました。また、中学校と高校との関係も昔よりも希薄にな

ったように思います。ある意味、高志中学校、高志高校という二つの学校を作ってはならない。そのように私は感じます。中学と高校、高入生と内進生のといった枠をこえて縦のつながり、横のつながりを重視して、『高志』として一つになってこそ、よりよい学校になるはずです。高志高校としては歴史が長く、伝統のある学校ですが、高志中学校も含めた中高一貫校としてはまだまだこれからです。『高志』にしかない、新しい学校の形が今後できていくことを期待します。

ちょうど一年前、新年度は二か月間の休校から始まり、今ではマスク生活が当たり前になっていきます。受験生としての大事な一年間のスタートをいつも通りにきれなかったことに加え、高校生活最後の大会やコ

ンクールも中止になり、それぞれがやりきれない思いを抱えていました。それでも制限のある中で学校祭を成功させ、受験に向けても精一杯の努力をしました。今年は大
学入学共通テストの初年度で不安もある中、
一月の初旬には3年前と同じような大雪に
も見舞われました。本当に困難な一年を過
ごしてきたと思います。しかし、将来、この
経験は必ず力になるはずで。感染拡大は
まだ完全に収束しておらず、これから先の
社会も不透明なままです。先行きの見えな
いなか、新たな一步を踏み出すのはとても
不安です。しかし、こんな世の中だからでき
ること、やるべきことがあるはずで。この
高志の学び舎で過ごし、成長した私たちに
は無限の可能性があります。荒れ狂う時代

の波にのまれるのではなく、逆に乗りこなしていけるような力をつけていこうと思います。

最後になりますが、私たちを支えてくださったすべての方々に改めて御礼申し上げますとともに、本日、ご臨席いたただいた皆様のご健勝と高志高等学校、高志中学校の更なるご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和三年三月二日 福井県立高志高等学校

第七十二回卒業生 代表 飛山空良